

児童が持久走大会で利用する道路の段差を解消してほしい

〔相談の要旨〕

市立小学校では、毎年 12 月に開催する持久走大会に向けて、全校児童が路上練習を行っている。しかし、この道路には、歩道と側溝の蓋との間に段差があるため、見通しの悪い箇所を左折する際に、毎年、数人の児童が転倒し怪我をする事故が発生している。

このため、当該道路の持久走実施区間における歩道と側溝蓋との段差を解消してほしい。

〔相談の結果〕

この小学校の児童の保護者数名から相談を受けた行政相談委員は、道路における児童の転倒被害状況を調査するとともに、現地を確認したところ、歩道と道路側溝の蓋との間に最大 5 センチメートルの段差があり、直角に曲がる箇所等では、児童等が転倒する危険があると判断した。

そのため、行政相談委員は、道路管理者に相談内容を連絡し、早期の改善を要請した。

行政相談委員から当該区間における児童の転倒被害状況等の連絡を受けた道路管理者は、ただちに、持久走コース全体を点検し、必要な箇所の補修工事を行った結果、相談から 4 日後に当該小学校の持久走コースの補修が完了した。

その後に開催された持久走大会では、道路の段差のため転倒する児童はいなかった。